

第14期 葛飾区社会教育委員の会議（第8回）会議録

- 開催日時 令和6年3月21日（木） 午後2時00分～4時00分
- 会 場 ウィメンズパル A会議室
- 出席者

社会教育委員（5人）

高井 正 萩原 建次郎 緒方 美穂子
齋藤 桂三 澤村 英仁

報告者（2人）

杉並区教育委員会学校支援課・社会教育主事 中曾根 聡氏
大人塾連世話人会代表 朝枝 晴美氏

事務局職員（4人）

生涯学習課長 柏原 正彦
生涯学習課学び支援係長 佐藤 吉裕
生涯学習課学び支援係主査（社会教育主事） 与儀 睦美
生涯学習課学び支援係 矢作 孝寛

出席者 計9人

次第

1 報告事項

- (1) 葛飾区教育振興基本計画推進委員会

2 議事

- (1) 「すぎなみ大人塾」の取組
- (2) 今後の会議の進行について
- (3) その他

配布資料

- 第7回会議会議録案
- 葛飾区教育振興基本計画推進委員会関係資料〔資料1〕
- 「すぎなみ大人塾」関係資料〔資料2〕（既配付）
- 「すぎなみ大人塾2022記録集」（既配付）
- 「大人の寺子屋おもしろMAP」（既配付）
- 「すぎなみ大人塾」説明資料〔資料3〕
- 第14期葛飾区社会教育委員の会議スケジュール（案）〔資料4〕
- 日本青年館新書『社会教育をまなびほぐす 社会教育の再設計シーズン4』

○「かつしか教育プラン 2024～2028」、同概要版

○関連事業チラシ（かつしか区民大学「特別講演会〈オンデマンド配信〉アニメを科学すると世界はこんなに面白い！」）

—開会—

○事務局 みなさまこんにちは。年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は杉並区からお二人、遠路葛飾までお越しくくださり、ありがとうございます。ただいまから第8回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。

本日欠席の連絡をいただいている委員は風澤委員と山村委員です。

本日傍聴の予約が一件あったのですが、まだお見えでないようです。

それでは資料の説明をさせていただきます。委員の皆様のところには第7回の会議録の案があるかと思えます。こちらをお持ち帰りいただきまして、ご確認の上修正箇所がございましたら、事務局までメールでご連絡をください。4月4日木曜日までをお願いします。

この議事録は案でございますので、外部には出されませんようお願いいたします。修正を反映させましたら、確定版を葛飾区ホームページに掲載します。

第6回の会議録は既にホームページ上に掲載しておりますが、委員から一か所修正のご意見がありましたので、再度修正して掲載します。

本日は、前回配布しました「すぎなみ大人塾」の資料をお持ちいただきましたでしょうか。ありがとうございます。そちらが資料2となります。

机上に配付しました資料は、次第と、教育振興基本計画推進委員会関係の資料が資料1です。

資料3が、本日杉並区の二人からご提供いただきました「すぎなみ大人塾」についての資料です。

資料4は、第14期社会教育委員の会議のスケジュール案です。

新しい「かつしか教育プラン（2024～2028）」と、その概要版をお渡しします。こちらの策定には、緒方委員が策定検討委員として参加されました。緒方委員におかれましては、大変お疲れさまでした。

それから、日本青年館新書社会教育の再設計シーズン4の『社会教育をまなびほぐす』を、皆様に一冊ずつお渡ししたいと思います。議長、副議長からご推薦いただきました図書です。ぜひお持ち帰りの上、お読みください。

関連事業のチラシとしまして、区民大学の特別講演会のチラシをお配りしております。

最後に追加で、緒方委員が活動しているレインボーボンの「子ども食堂通信」をお渡しします。以上皆様のお手元にありますでしょうか

この後は、議長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長 皆さん、こんにちは。本日は8回目ということで、もう一年近く経つのですが、残された期間もだんだんと短くなってきておりますので、きちんと役割を果たしていければなと思っております。

この後、報告事項と議事に入っていくのですが、初めて会う方もいらっしゃると思いますので、所属とお名前だけ紹介してから始めたいと思います。

私は、高井と申します。杉並の二人とは長いことお付き合いしています。

○副議長 私も存じ上げております。駒澤大学の萩原です。

○澤村委員 澤村英仁と申します。地域でいろいろ街のことを調べてまとめたりという活動をしております。よろしくお願いいたします。

○緒方委員 レインボーリボンの緒方と申します。子ども食堂やいじめ防止教室、PTA研修などを行っております。よろしくお願いいたします。

○生涯学習課長 生涯学習課長の柏原でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○事務局 生涯学習課学び支援係長の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局 社会教育主事をしております与儀と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 学び支援係の矢作と申します。よろしくお願いいたします。

○議長 本日お配りいただいている『社会教育を学びほぐす』を開けていただき、最後のページを見ていただきますと、その一番上に朝枝さんのお名前があります。「社会教育の再設計」を実行委員会形式でやっておりまして、そこで「学びのクリエイターになる！」という1年間の講座を開いたのですが、朝枝さんはそこに参加された修了生で、「社会教育の再設計」の実行委員長をされています。後ほど、またお話しいただければと思います。

同じページの下から6番目に、中曽根さんもいます。中曽根さんは社会教育主事をやっていたらいいまして、佐藤さんや与儀さんもそうですが、この社会教育主事というのは、社会教育法に基づいて、教育委員会事務局に置かなくてはならない、という専門的教育職員です。比較的長く社会教育の職場で専門的な仕事をする立場の職員ということです。

1 報告事項

(1) 葛飾区教育振興基本計画推進委員会

○議長 では、これから具体的な中身に入っていきたいと思います。報告事項の（１）葛飾区教育振興基本計画推進委員会ということで、これは主に進捗状況を確認していくという立場で、「かつしか教育プラン」を作る立場の委員会の委員を緒方委員に担っていただきましたが、この基本計画推進委員会というのは、今までの計画がどうなったのかチェックするというで置かれた組織で、私どもこの会からは齋藤委員に出ています。齋藤委員さんは前回の会議に出席できませんでしたので、事務局の佐藤さんから簡単にご報告をいただければと思います。

○事務局 では資料1をご覧ください。2月19日に今年度の最終の基本計画の推進委員会がありました。

その中で、新たにできる「かつしか教育プラン（2024-2028）」の令和6年度の事業予定、どういった事業をどういう形でやっていくか、ということの報告がありました。その報告に基づいて、委員の皆様からご意見をいただきました。

生涯学習・社会教育に関わる部分は、基本方針3の部分で述べられていまして、学校教育に関することは基本方針1・2にあります。基本方針3の「生涯にわたる豊かな学びを支援します」ということで、それぞれに成果指標や目指すべき方向性、施策がありますが、それぞれの「方向性」の中から令和6年度の「取組予定」を記載したものについて、意見交換をしました。

詳しくは資料をお読みいただいて、令和6年度こんな形で進んでいくんだというところをご確認いただければ、と思います。

令和6年度の基本計画の推進委員会についても、2回予定されております。私の方からは、以上です。

○議長 ありがとうございます。

今日は新しい冊子を概要版も含めてお配りいただいたので、ご奮闘いただいた緒方さんから、参画してみてできたこと、できなかったことなど、ご感想などをいただければと思います。

○緒方委員 会議の様子を毎回報告させていただいて、こういった視点から次の会議では発言した方が良いというアドバイスもいただけて、大変感謝しております。その都度ご報告したとおり、「葛飾教育プラン」を策定するにあたって、理念の部分が非常に薄いといえますか、葛飾区の教育をどういった理念で進めるのかというところを、毎回のよう問い正してきました。今日は、杉並区の基本構想の理念に沿った生涯学習の推進状況、現実を聞けるということで大変楽しみにしております。

○議長 ありがとうございます。突然の指名で失礼いたしました。

2 議事

(1) 「すぎなみ大人塾」の取組

○議長 では、これから議事の方に入っていきたいと思えます。私どもは社会教育に関わる部分を担当するわけですが、前提となる葛飾区の基本計画や教育プランを踏まえながら、きちんと進めていければと思っております。

今日は杉並区の「すぎなみ大人塾」の取組についてお話しいただきますが、前回事前学習ということでビデオを見ましたが、音が小さく聞き取りづらかったこともありますので、もう一度見ていければと思っております。

また、たくさん資料もいただいておりますので、それを踏まえながら私たちも「学びの循環」ということをテーマにどのように迫り、今後どういう形で展開していくのかという質問を踏まえながらお話を聞いていければと思えます。

まず、動画の上映をお願いします。「学習支援者」という方の存在といったところも見ていただければと思えます。

(動画視聴)

○議長 今見て、いろんなことを感じられたと思えますので、ご質問があれば、また後で出していただければと思えます。学んで気がついたことや、感じたことを伝えていくということが大事だと改めて感じました。

「すぎなみ大人塾」の記録集を前回いただいたので、ざっと目を通してきましたが、「サポーター」という立場ではあるけれど、そういう方自身が学習者なんだ、ということも書かれています。私自身も、社会教育委員という立場ながら学習者でありたい、ということを感じたところです。

ここで、今おいでになった齋藤さんに、一言、自己紹介をお願いいたします。

○齋藤委員 すみません、遅くなりまして、会議が長引いたものですから。齋藤桂三と申します。現在は学校法人の理事長と別法人の理事を務めさせていただいております。よろしく願いいたします。

○議長 ありがとうございます。ここからお二人からお話をお伺いするわけですが、前回の会議の時に、お尋ねしたいことを出していただいて、お伝えしています。中曽根さんには、職員という立場から学習している皆さん、大人塾の皆さんや区民の方々へ、どのような支援をやっていらっしゃるか。また、朝枝さん

は、区民の立場、学習者の立場で、そういった支援をどう受け止めているのか、お二人の視点からお話をいただければと思っています。

また、プログラムが変更可能性の高いものだと記録集にも書いてありましたが、こういった学習プログラムやテーマの設定を誰がどのように作ってきているのだろうかということ、また、「すぎなみ大人塾」という事業が区のいろいろな上位計画の中でどのような位置づけであるのか、というようなことを踏まえでお話ししていただければと思います。

では初めに、中曽根さんからは、「すぎなみ大人塾」の成り立ちや目的、取り組み内容、また、工夫しているところなど、担当職員の立場からお話をいただければと思います。

○中曽根氏 改めまして、杉並区で社会教育主事をしている中曽根と申します。今日はお声かけいただき、ありがとうございます。来る前に「かつしか教育プラン」がちょうど杉並にもデータで送られてきたので、見させていただきました。葛飾の方がきちっとやっていて、杉並の事例を話すのが申し訳ないと思いながら参加をさせていただきました。

「すぎなみ大人塾」について、私の方からは、教育委員会の主催の講座ということで少しお話をさせていただいて、その後、かつて受講生で今は卒業生のグループのまとめ役で、またさらに杉並区の協働プラザの受託者にも最近なられている朝枝さんに一緒に来ていただいているので、朝枝さんからリアルに区民の人たちの動きが伝わるようなお話をさせていただければと思います。

私の方からは、まずは枠組みについて、簡単にお話しさせていただきます。杉並区教育委員会の中に生涯学習推進課というのがあります。その生涯学習推進課が、社会教育センターというかつて公民館だった社会教育の施設と、郷土博物館という2つの施設を所管しているのですが、「すぎなみ大人塾」というのは、社会教育センターが主催している連続講座になります。直営で開催していて、受講料は無料。全額税金で運営をしているというものになります。

「すぎなみ大人塾」を始めた時に、この講座のコンセプト、どういう場なのか、わかるキャッチフレーズをつけようということで、当時立ち上げに協力していただいた区民の方といろいろ話してつけたキャッチフレーズが「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」というものになります。

まずは、大人の学びですので、すでに大人はいろいろな経験を積み重ねて、そしてそれぞれに専門的なスキル、知識を身につけて、改めて自分のあるいは家族含めて生活してきたことを一旦振り返り、棚卸し的なそんな機会にしてもらえたらと。

そして併せて、「社会とのつながり」と書いてありますが、自分というのは実は地域や社会とのつながりの中で、あるいはそこまで大きなことを言わなくて

も、誰かとつながる中で生きてきたんだなということを改めて発見していただく、そういう「関係」の中に生きている自分というものを位置付けていただくような、そんな機会にもなればいいなと。

そして併せて「大人の放課後」ですので、あまり肩肘張らずに気楽に自由な発想でそれぞれが語り合えるような、夜のお酒とかも含めてかなり自由に学び合える、そんな空間にできたらいいね、ということで始めたものです。

だから、例えば「かつしか区民大学」さんはすごくきちっと組み立てられていて、すごいボリューム感で準備されているのに対して、この大人塾は、ある意味非常に貧弱というか、吹けば飛ぶようなこの枠組みというのを常に持ち合わせていたような気がするんですが、逆にそのちっちゃいが故の自由度みたいなところを楽しんで走り続けてきたようなものです。

2005年からはまったので約20年続いている、そんなプログラムになります。実際には、「総合コース」、「地域コース」、「はじめの一步コース」というのが今年度の3つのコースになっています。前回皆さんにもご覧いただいた「広報すぎなみ」にも、3つのコースのことが紹介されていたかと思います。資料の3ページのところに「すぎなみ大人塾とは」とありますが、「総合コース」は、学びを通して自分や家族を見つめます。そして、「地域コース」は、地域の一員として街への関わり方。そして、「はじめの一步コース」は、大人塾に参加したことがない方、あるいは杉並区の講座に参加したことがない方向けに、学びほぐし的な要素を含めて行われています。

今日お配りした資料に、「地域コース」のチラシが入っているかと思いますが、どんなことをやっているか、見ていただければと思います。今日映像で見ていただいたのは「荻窪コース」で、荻窪という杉並の中の1エリアをフィールドにして行っていたのですが、今年度からは「久我山・浜田山コース」ということで、井の頭線沿線、杉並の南の方のエリアを対象に行っています。「みんなで遊学体験まち発見クイズ・プロジェクト」ということで、街にまつわるクイズをみんなで作っていくというのを一つの軸にしながら、街のことを学んだり、自分が知っている地域に関わる情報を出し合ったり、そんなプログラムになっています。

裏面を見ていただきますと、上の方に「学習支援者」と書いてあると思います。この方には、学びが深まるプログラムにするにはどうしたらいいのか、初めてこの学習プログラムを見た人が行ってみたいと思える入り口の低さを用意するにはどういう投げかけがいいのか、講座作りを職員と一緒に考えてもらうような役割として、連続講座に毎回来ていただく「講師」という形で謝礼を払ってお願いをしています。

あと、一番下のところに、「学びあいの伴走者」と書いてありますが、この方たちは「すぎなみ大人塾」に参加して、その後卒塾して地域で何か活動を始めた

りしているような方になっていただいています。ここに書いてあるように、「大人塾卒塾生や地域で活動されている方々が皆さんの学びに伴走します」ということです。

講師的な人が「学習支援者」、少し学びの先輩で新しい受講生の学びを伴走していくような、あるいは学んだ人を地域と一緒に誘い出してくれるような役割の人を「学習支援補助者」と言いますが、「学習支援補助者」はすごく分かりにくい。「学習支援者」というのもちょっと固いかな、というようなことで、愛称をコースによって自由につけていただいているのです。今の「久我山・浜田山コース」では、「学習支援者」はそのまま使っていますが、「学習支援補助者」の方は「学びあいの伴走人」となっています。

「荻窪コース」の場合は、「学習支援者」は嫌だということで、「学びの案内人」、そして「学習支援補助者」は「荻窪サポーターズ」と言ってやっていました。そんな形で、ある程度こういう学習プログラムを組み立てたことがある方に「学習支援者」をやってもらって、その街のことを知っているあるいはかつて自分が大人塾で学んだという方が「学習支援補助者」をやっている。こんな形でプログラムを一緒に作り運営し、そして職員が付き合いきれない受講生の自主的な活動にも学習支援補助者の方たちは付き合ってくださいというので、うちの補助者の方は、限りなくボランティア的な役割で協力をしていただいています。

ソーシャルワーカーをやっているAさんは、普段は地域包括ケアのお仕事をされていて、職業柄地域福祉というものを推進しなければならないのですが、地域の中で支え合うといってもなかなか協力者の輪が広がらない。「福祉」と言ったとたんにごく重たいものを背負わされるような印象があって、むしろもっと楽しみながら学び合う、そういう大人塾のような雰囲気を生み出して人と人の関係を作っていくということがないと、地域福祉というのは成り立たないんじゃないかと。そういう関心を持ってご自分も大人塾に参加されて、やっぱりそうだとすることで、今度は自分のなじみの地域で開催してみたいということで、名乗りを上げました。

Bさんは、青少年委員です。大人塾の人たちは、学びから地域に入るという方が多いのですが、青少年委員さんは、どちらかというとPTA活動とかむしろ必要に迫られて地域で活動をしているうちに、人と人をつながり、顔見知りが増える、あるいは子どもたちとやっぴりみんな育てているものだよねという、そういう実感を持って地域に入ってきた方なので、大人塾の卒塾生だけではなくて、少し違う角度の方にも協力してもらいたいということで、声を掛けて入ってもらいました。

Cさんは、長年大手の新聞社で記者をやっていたのですが、退職を機に地域で

何かできないか、ということで大人塾に入っておられた方で、この方も卒業して自分の地域で今度は自分が学びをつくる側になってみたい、ということで。

先ほどの映像で、最後に1人ずつ話していたのが「学習支援補助者」の方たちで、最初のところからずっと話していたのが、「学習支援者」です。こんな方たちと一緒に組み立てて開催しているのが地域コースということになります。

それと、「はじめの一步コース」というのは今年度からスタートさせたプログラムですが、「わくわくから始まる大人の放課後デビュー」ということで、そもそも地域で学ぶということを経験してもらおうという、非常に敷居が低いプログラムとして開催しています。こちらは学習支援者に荻上健太郎さんという小中学校の現役の保護者でファシリテーションを専門にして活動されている方にご協力いただいています。こちら連続講座です。

どうしても私たちは、「講座」とか「学び」というと、自分の知りたいことを取り入れていくというか、今の自分にはないものを学習をすることによって自分が一步ステップアップしていくような、そういうイメージで捉えがちかと思うのですが、むしろ「学びほぐし」ということではないか。それぞれが自分の持っているものをお互いに活かすような形で再構築していく、そういう学びの面白さを体験してもらおうということで、講座の前にお試し会をやっています。まずは来てみませんか、単発でお試し会を開催して、来た方たちは、この講座は一体何が学べるんですか、と。

このチラシだけ見ると何が学べる講座かほとんどわからないのですが、地域でやってみたいと思っていた人が何だかわからないけど、とりあえずお試し会に申し込んでみようと思って来てくださって、その方たちの多くからは、この講座を受けるとどうなるんですか、何を教えてくれるんですか、そういうやりとりをしながら、実は誰かに何かを教わるんじゃないかと、今集まっているこのメンバーで学び合うということがこんなに面白いんだ、というものを経験していただくような、そんなプログラムになっています。

最後になりますが、「総合コース」ということで、今年度は「チガイ・ラボ」というのをやっています。これからの地域や社会の中で欠かせない観点として、「ダイバーシティ」、「インクルージョン」というキーワードがあります。杉並区においては基本構想でも、杉並区のあり方として「ダイバーシティ」、「ソーシャルインクルージョン」をあげていますし、教育ビジョンもそういう観点につなげています。そういう意味では、これからの区民一人一人が自分のなかに「インクルージョン」ということを落とし込んでいくのですが、ある意味、どう受け止めて、日々の自分の中にどう取り込んでいけばいいか、なかなかわからない言葉でもあるねということから、この「総合コース」においては、これからの新しい市民性、シチズンシップとして欠かせない「インクルージョン」を学んでいくよう

なプログラムとなっています。

これは少し知的な好奇心をくすぐるような形になっていて、「学習支援者」として伊藤さん、企画運営協力者として東大の熊谷晋一郎さん、それに職員が共同で企画をしています。これについては、「学習支援補助者」はなくて、むしろこの2人を軸にしながら職員と3者で運営しているという形になっています。

こちらのプログラムは表面の右下にあるとおり、東大の先端研や、ムーンショットという2050年までの技術開発をしていこうという国のプロジェクトなのですが、こういったところや、あとラーニング・デザイン・ラボという伊藤さんという学習支援者が立ち上げている学びのサイトなのですが、そことネットワークを組みながら運営をしています。

中身を見ていただくと、考えていく切り口は「当事者研究」です。いろんな当事者の方々が語り手になって、これまでどちらかというと、障害者のことは健常者が研究して障害者に良かれと思って健常者がいろいろな制度や枠組みを整えていくという形だったものを、むしろ自分のことはその方が一番よく知っているという考え方から、例えば、若年認知症の方に認知症ってどういうことなのかを聞いたり、ダルクの方からは「依存症って一人ぼっちの感覚というのに付き合っている」というのはどういうことなんだろうか……、そういうふうに、当事者の方をゲストにしながら行っています。

これからも、地域活動や社会の中で生きていくときに欠かせない関係を学んでいただく、そんなプログラムということで、全部で3つのプログラムを今開催しています。「すぎなみ大人塾」の特徴としては、何かを教わるというよりは一人一人の気づきを大事にしていこうと。それと、教室の中で学ぶというよりは街の中に出ていくとか、街の中で生活しているいろんな方と出会う機会を作るとかを大事にしている、ということがあります。

社会教育の講座では、講座が終わるとグループを作るような流れというのがあるのですが、むしろ大人塾では、結果としてグループを作るということはあるのですが、一人一人受講生がまずは自立した区民になって、必要に応じていろんな人と関係を取り結んでいけるような、そんな力を育てていけるといいね、と考えております。

変更可能性の高いプログラムということで、特に「地域コース」や「はじめの一步コース」については、毎回受講生の反応を踏まえながら次回、次々回の予定を組み替えていく。チラシでは大枠はご紹介をしていますが、受講生の関心とか受講生が持っているいろいろな知見やスキルというものを生かしながら、講座の後半プログラムを運営側で話し合いながら変えていくような、変更可能性の高いプログラムを目指してやってきました。

「すぎなみ大人塾」の背景としては、2002年は地域人材育成のプログラムが

杉並区で始まるきっかけになった年なのですが、2002年というのはちょうど学校が完全週五日制になったり、総合学習というものが学校の中に取り入れられたということで、それまでの学校で閉ざされた学びではなくて、学校と社会がつながる学び、あるいは週休二日制でいくと土日は子どもたちの体験的なプログラムというものをもっと重視していこうと、そんなふうな社会の状況と教育の方策が変わっていった年です。そういう時代の切り替わるところに合わせて、大人ももっと地域の中で関わっていくようなプログラムを作ろうということがきっかけでした。直接的には2004年度に社会教育委員の会議で、自分たちで自分のまちをつくる社会教育、これからの杉並の社会教育は、自分たちで自分のまちをつくるという意欲とか活力とかそういうものを育てていくようなプログラムに特化していく、ということになって、翌年から「すぎなみ大人塾」が始まります。

特に「すぎなみ大人塾」においては、社会教育の機能として、学習者の主体性とか、学び合うとか、あるいは結果として住民の自治力が向上していくという、そういうプログラムを直営でやっていこうということで、ここに絞り込んで開始したところもあります。

資料に「2006年度からすぎなみ地域大学」と書いてあります。教育委員会では「すぎなみ大人塾」をやっていますが、区長部局では「すぎなみ地域大学」というものを開催して、行政課題の必要に応じて地域人材を育成するプログラムを並行して走らせています。ですので、すぎなみ地域大学においては、例えば、図書館ボランティアの養成講座とか、福祉車両の運転ボランティアの養成講座とか、あるいは学校の子どものための介助をするボランティアの養成講座とかを特化してやっているということがあって、そういう意味では杉並では二本柱で地域人材育成に取り組んできているということがあります。

その後も、2009年度には社会教育委員の会議から「やりとりの復活が生み出す新しい公共空間」という報告書が出されて、「すぎなみ大人塾」で軸にしている「学びあう」という、人と人がやりとりする機会を街の中に増やしていくということが、結果として公共空間を再度作り直していくことにつながるのではないかと。社会教育委員さんの問題意識を踏まえて大人塾を発展させてきているというようなことがあります。

その後2011年、2021年と教育ビジョンを2回策定しています。2011年の教育ビジョンは「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」、2021年度の教育ビジョンは「みんなのしあわせを創る杉並の教育」。この教育ビジョンは、先ほどご紹介があった「かつしか教育プラン」と同じように教育振興基本計画の位置づけで策定を進めたもので、杉並は教育ビジョンは10年を一つのスパンにして、理念に特化して策定しています。

学校教育、社会教育いずれも、ここにある「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」、そして「みんなのしあわせを創る杉並の教育」という理念のもと、社会教育としては「すぎなみ大人塾」を開催しているということになります。

もう一つ「すぎなみ大人塾」の特徴としては、これからお話しいただく卒塾生の有志で「すぎなみ大人塾連」という任意団体をつくっていただいている、この団体と一緒にいろいろな取組を3つのコース以外にも職員も一緒にやっているということがあります。

大人塾連というのはだいたい毎月1回、定例で世話人会を開催していて、その世話人会の代表が朝枝さんなのですが、大人塾を卒塾した人たちには、大人塾連の方々と交流するような機会をつくったり、あと大人塾卒塾生が地域でいろいろなことを始めていくのですが、そういう活動をお店形式で紹介し合う「大人塾まつり」というものも、大人塾連が主催して教育委員会が共催という形で開催をしています。社会教育センターとしても大人塾連の活動に関しては会場の提供や分担金の支出、分担金の支出といっても上限10万円なので大した支出ではないのですが。それと、取り組みがあるときには広報に掲載したり一緒に運営したりという形になっています。

社会教育センターの職員としては、ここに書いてあるような「学習支援者」や「学習支援補助者」、ゲスト講師と講座の企画運営をしていくということは、一番大きな仕事になります。それ以外にも、先日お配りした記録集のような形で受講した方たちの言葉を残していくとか、記録化して各担当職員が感じた成果と課題を残していくなど、大人の学びを形にして見せていくということもあります。

あと、大人塾連の世話人会に出席したり、また年に1回「アドバイザー会議」ということで、各コースの学習支援者の方たちや社会教育の専門家の方、社会福祉の専門の方に来ていただき、私どもの管理職も同席して、大人塾の方向性を定期的に振り返って議論するというのも職員の仕事になっています。

その他、行政計画への位置づけとか教育事務の点検評価ですね。それから他部署からもいろいろと声掛けがあるので、そういうものに対して卒塾した方と他の部門の職員をつないでいく、そんなことも社会教育センターの役割になっています。

この20年大人塾をやってきて、改めて社会教育は何をこれからしていったらいいのか、というようなことを私なりに感じているところを挙げてみました。社会教育の大事なことは、当事者としてみんなで考えて共に実践して公共性をつくっていくところ。そんなところがこれからの地域づくりの中では大切で、それを下支えしていくのが社会教育。社会教育を通してそういったところにつながっていく。消費者として消費する区民を増やすのではなくて、一緒に公共をつく

り直していく、そんな力のある方々を社会教育としては一緒に育てていく、一緒になって活動していく、ということが大事なのだらうと思っています。

戦後に、「公民館」という構想を描いた文部省の寺中作雄さんが描いた「公民」像がありますが、現代における「公民」はどんな像になっているのか描き直していくようなことが社会教育には必要だと思います。杉並区においては、基本構想や教育ビジョンの中でダイバーシティやソーシャルインクルージョン、そして社会の当事者として生きていくということがキーワードになっているので、社会教育事業としても、ここに「公民」像の軸をおいて、大人塾を今後展開していきたいと考えております。

なお、教育委員会の事務をまんべんなく点検評価をしているところが多いのですが、杉並では、生涯学習・社会教育に特化して点検評価をした年度があります。そこには大人塾のことが多く書いてあるのですが、併せて、地域学校協働活動とかコミュニティスクールとか、社会教育主事のことも書いてありますので、機会があれば読んでいただきたいと思います。

また、ここ数年「総合コース」で主軸にして取り組んでいる「当事者研究」について、当事者の観点から熊谷さんが語っているものがあります。

とりあえず私のほうからはこれで終わりにさせていただきます。

○議長 大変丁寧な説明をありがとうございました。点検評価を見ますと、社会教育主事とはどういうことをやっているのかが丁寧に書かれています。点検評価は、自治体によって、しっかりやっているところとそうでもないところがあるのですが、杉並区は大変丁寧です。二人の研究者・学識経験者の方が参画されていて、その方のコメントも書いてあります。そのうちの一人が今日お配りした冊子に登場している牧野先生です。牧野先生は継続してやってらっしゃるんですか。

○中曽根氏 杉並の場合は基本2年ごと交代しているのですが、今はお願いしていないんですけれども。

○議長 丁寧な記載の仕方で、完成までのやりとりがとても大変だったのではと思います。それがあからしかりしたものになったのかなと。

中曽根さんには職員の立場でお話いただけたのですが、朝枝さんからは大人塾の参加者、また、現在は大人塾連の代表、世話人の代表、市民の立場の視点からご説明いただければと思います。

○朝枝氏 はじめまして。杉並から参りました朝枝と申します。よろしく申し上げます。

中曽根さんからも説明がありましたけれども、「すぎなみ大人塾」は「自分を振り返り社会とのつながりを見つける大人の放課後」ということで、2005年から始まりました。このキャッチフレーズをみんな意外と気に入っています。「大

人の放課後」は飲み会につながるところもあり、とてもみんな気に入っているものです。「すぎなみ大人塾連」は今お話しいただいたようにゆるい卒業生の集まりで、卒業した人は誰でも入れますよ、というような形の、建付けのゆるい集まりになっています。

「世話人」というのは、その年の学びの中でだれか一人か二人出てきていただいて、その方たちを「世話人」として月一回定例で集まっています。飲み会が目当てだという話もありますけれど、ちゃんと真面目に会議をして、いろいろな活動について話し合ったり、振り返りをしたりしています。

昨年、2023 年について、画面でご紹介させていただければと思います。主に教育委員会との共催事業で、分担金をいただいている事業になります。これは違うのですが、8月に杉並区では「阿佐谷七夕祭り」という大きなお祭りがありまして、戦後、8月はお客さんが少なくなるということで商店街の方たちが考えられたお祭りです。ただ、長年続いて商店街の方が高齢ではりぼて作りが辛いという声が聞かれる中、当時の大人塾の塾生たちが地域のお祭りに参加したいということで、2006 年からはりぼて作りを始めました。昨年、コロナ明けということで久しぶりに作ったのですが、写真をごらんいただいておりますように結構大きな枠組みをつくり、針金でさらに細かく枠を作って紙を貼って行って、色を塗ったりするんですね。昨年は中学生にも手伝いに来てもらいました。子どもたちに結構人気な「パンドろぼう」というキャラクターを作ろうということで、ようやくできましたが、張り切ってつくったものの大き過ぎたので運べなかったものですから、お店の前でみんなで組み立てをして、やっと吊り上げました。化粧品屋さんのお借りして吊り下げました。こちらは、初めて賞をもらって良かったね、という写真です。右端の方はこの前にある中華料理屋さんの店主さんで、私たちとは何も関係がないんですけど、下すのを手伝ってくれました。

11月に「すぎなみフェスタ」という、2日間で10万人が来るような大きなお祭りがあります。今年は区長も替わられたということで、SDGsを意識して、使用済みのコルクを使ってオシャレなワークショップをしようということと、それから12月に開催予定でした「大人塾まつり」と上映会の宣伝をするということで、参加しました。コルクをくり抜いて多肉植物を植えるのですが、結構大変で、中に土を入れて小さな苗を入れるというのは不器用な私たちにとっては大変だったんですけど、試行錯誤をしながら、どういう土を使ったらいいんだろうか、どのように苗を固定するかなどと、準備をするのが楽しいな、という写真です。でも、実は当日、やっぱり大変で、私たち以上に子どもたちが細かいものを取り扱うというのは、なかなかうまくいなくて、もう少し検討の余地があったかな、と思いましたが、95名の方にご参加いただいて、無事完売することができました。

12月9日には、映画の上映会をさせていただきました。教育委員会との共催を取ったおかげでセシオン杉並の大ホールをお借りすることができて、「こどもかいぎ」という映画を上映しました。これは、小さな哲人たちが日々の揉め事をピーステーブルというところで話し合っ、自分たちなりに解決をしていくという取り組みをしている保育園のドキュメンタリーです。とても面白いです。死というものについて語っているときに、「うちのおばあちゃん、ピッチピチなんでもまだ死なないよ」とか言いながら話したりして、また子どもたちなりに言葉が少ないのですが、一生懸命語り合っ、喧嘩や色々な揉め事を自分たちで解決していく。そういう日々の対話を「こどもかいぎ」として映像にしたものです。終わった後、私たちも「オトナ会議」と称して、近くにいる人たちと感想を話し合っ、てみましょうということで話し合いました。我が家にもピーステーブルが欲しいと、夫婦喧嘩もそれがあればいいんじゃないか、という話が出て、あるいは子どもの話をちゃんと聞いてないことも多いかもしれないね、なんていう声も出ました。

その翌日、「大人塾まつり」を5年ぶりに開催しまして、テーマを「サイカイ」としました。再び始まるという「再開」と、偶然の出会いという「際会」をかけて。自分の店を出すということで、駄菓子屋の出店や、コーヒーのマスターをやってみたかったということでコーヒーを提供している人や、私は風船で大きいものを作ってみたかったのでやってみました。それぞれ自分でやりたいことをさせていただいた、と思います。

まつりの片付けの後、振り返りをするための二次会が始まると、なぜかスラムダンクの人が出てきて司会をしてくれるんですけど。急になぜか阿波踊りが始まったりして、みんな踊り出すんです。この動画の中には中曽根さんもどこかにいるはずですが。最後にこうして締めが入るんですけども、何をやっているのかわからないんですけども楽しいね、ということでやっています。この阿波踊りは今回障害者の連を率いている方たちがまつりに参加してくれたという経緯もあります。一応、楽しいだけでやっているのではない、ということだけ。

真面目に考えていることもあって、この間コロナ禍で少し考えました。新しい出会いを求めたり、新たな人たちとの活動を見たり、さまざまな機会を作ろうということで、3つの部会を作ることになりました。

「コミュニティスクール実践研究会」と勝手につけていますけれども、大人塾連の仲間で、学校運営協議会に出席している人たちがたくさん出てきたんですけども、「CS」（コミュニティスクール）ってこれでいいのかな？という疑問がいろいろ出てきたものですから、ちょっと集まって話し合っ、てみましょう、ということで開いています。

それから「居場所と出番研究会」は、街の中に自分たちの機会を作る、それと

ともに「公共」って何かな？ということをつえなおしましょう、ということで作りました。

それから「D&Iコミュニケーション研究会」は、多様性とインクルーシブという中で、コミュニケーションやコミュニケートをする中で、多様性を認めることは大事だけれど、なかなか認めきれないところもあるので、どうにか対話ということで実践できないか、という形でこの3つの機会を作らせていただきました。

これらはまだ根付いているは言えないのですが、例えば「コミュニティスクール実践研究会」では、うちの学校ではこんなことをしてみたとか、CSになったけれどよく分からない、他の学校はどうしてる？など、塾連以外の方の参加も増えてきていますので、いろんな方のお話を聞きながらCSをきちんと動かしていこうと考えています。

それから「居場所と出番研究会」では、公園を居場所に、ということで「公園プロジェクト」というものを作りました。公園をお借りして毎月最終土曜日午後から科学遊びなんですけど、飛行機を作ったりしながら子どもたちと遊ぶ、というものです。最近はリピーターも増えてきています。

公園にいて気づいたことがあって、土曜日にはお父さんと子どもが多いのですが、実はお父さん同士全く話をしていない。ただ遊具の傍で自分の子どもが危なくないかだけ見ている。それって何かできないかなと思って、次年度にはそういうお父さんたちにも話しかけられるようなプログラムをできたらいいかなと、これは私が勝手に思っていることですが、そんなふうにも感じています。

「すぎなみ大人塾連はすぎなみ大人塾を卒業した人たちの集まりです。興味ある方はどなたでもご参加ください。」となっています。

ただ、他にも、卒業生たちが立ち上げた仕組みがたくさんあります。「OgiLOVE」という会は、「荻窪のコース」を卒業した人たちが集まって、最近は卒業生だけではなくて、荻窪に住んでいるスポーツ推進委員さんとかいろんな方が入って、今30数名近くメンバーがいます。

「ノリの里会」というのは、総合コースの卒業生の集まりで、たまたまのりさんやかずのりさんとか「のり」がつく人たちが多かったことと、ノリが大事だということで名付けた会なんですけど、「当事者研究とはなんだろう」と1年間習ったけど分かったようで分からない、ということで、自分たちで引き続き学んでいます。今はそこから派生して「モルックの会」もできました。「モルック」をしながら、スポーツを通じてインクルーシブを考えるような形になっています。

それから「まちナカ・コミュニティ西荻みなみ」ですけど、これはとても有名な試みです。西荻コースを出た方たちが西荻でコミュニティの中心を作りたい、

学びの場を作りたい、ということで、店舗を借りて今活動をしています。

「グッドハンズ杉並」とか、他にもいろいろな活動があって、それぞれ一人一人がネットワークのノットになって結び目になって、そこからまた発信をしてネットワークを作っていくというような形になっているのではないかと思っています。関心を持ってくる人は誰でも仲間です、ということで活動をしています。以上です。

○議長 ありがとうございます。実施年度ごとの活動があって、そこには異なった年度の参加者でも関心がある方は入れてしまうわけですね。緩いところが特徴かなと感じました。ありがとうございます。

お話を聞いて、いろいろ確認したいことがあるかと思うので、自由にどんどん出していただければと思います。

○緒方委員 先ほどハリボテを作っていた場所は、作っている期間ずっと貸してもらっているわけですか。

○朝枝氏 実は、ちょっと離れている所の小学校の図工室を借りているんです。夏休みなのでということで、校長先生のおかげで、その当日まで貸していただいております。

○緒方委員 社会教育センターというのは大きな建物なのですか。

○中曽根氏 セシオン杉並という複合施設の中にあるのですが、500人くらいのホールや展示室もあり、かなり大きな施設です。ただ、杉並区内に、そこに1個しかないんです。西荻窪の人や井の頭線沿線の人には来にくい場所です。

○緒方委員 そこが拠点ではあるけれども、今おっしゃったみたいに、近くの小学校も借りたりできるとか、会場はどうですか。

○中曽根氏 例えば「久我山浜田山コース」では、井の頭線にある施設を使ったり、「荻窪コース」では、荻窪にある施設を使ったりしています。「出前型」と言っているのですが、出て行くんです。

○緒方委員 葛飾区でそういうことをやろうとすると、会場確保が難しいのですが、それは教育委員会主催の大人塾で大人塾連だから、ということで、学校とかいろいろな施設を貸してもらえるんですか。

○中曽根氏 そうですね。教育委員会の事業だからという、いわゆる行政使用で地域の施設を使うということもあるし、あとは「高円寺コース」というのをやったときはとにかく行政の施設を使わないでやろう、というので、銭湯を借りて銭湯がお休みの日に風呂場で講座をやったりとか、あとはセレモニーホールを借りて友引の日に講座をやったりとか、あえてそういうことをやってみたりとか、いろんなパターンがあります。

○緒方委員 それも、自立した市民が卒業生が自主的に場所を探してしてくる。

○中曽根氏 大人塾の社会教育センター主催の講座は当然私たち職員も含めて

計画的に場所を取っているんですけど、大人塾連でやる場合は本当に自由だから、公園に出てってやっているよというところは、公園課などと交渉して。

○緒方委員 そうなんですね、すごいです。

○朝枝氏 前は何時から何時までやるの？と言われていたのが、今は、いつまででもいいよって。

○事務局 それは実績ですね。

○朝枝氏 実績かどうかは分かりませんが、でもやっぱり求められているかなって。この間協働の関係の部長が言ってたいたのですが、行政は区民のために仕事をするんじゃない、区民と共に仕事をするんだと。「シチズンシップ」という話がありましたけど、どこかでそこを意識していて、そうならねばならないってほど強くは思っていないのですが、やはり「自治」っていうものを考えるときに、公園課とも「やらせてください」ではなくて、「こういうことを考えているのでやりたいんです」というプレゼンをするんですけど、最初は受け付けられない。何言ってるんだろうこの人って感じなんですけど。でもそれを何回かやっていると、そういうことなのかなっていう形で受け入れてくれるのが、ありがたいですよ。初めにプレゼンしても、プレゼンはいりません、みたいな感じなんですけど、公園ってそもそもこうじゃないでしょうか、みたいな話をしながら、公園とか学校を借りるんですよ。

○緒方委員 葛飾区では、借りるのはちょっとハードルが高い。

○事務局 今は公園行政は、区民の人たちの力も借りながら公園運営をしなくてはいけないという意識を持っています。一方、学校はかなり厳しいと思います。葛飾区の場合は、というか、どこの自治体もそうかもしれませんけれど。

○緒方委員 何か事故があったらどうしてくれるんだ、みたいなところがあります。

○朝枝氏 夏休みに入ってから時間帯、図工室にはここから入って使ってください、というようなところは守ってやっています。

○緒方委員 コミュニティスクールの運営員になっている方が何人もいらっしゃるのか、普段からの信頼関係というか、地道な積み上げがあつてこそ許可なのでしょいか。

○朝枝氏 本当はそうなるといいんですけど、多分今借りているところは、大人塾に出席してくださった校長先生なんです。関わっているCSの校長先生とはまだそこまで話ができません。少しずつかな、と思います。

○中曽根氏 今度は「久我山・浜田山コース」の参加者だった人が教育長になるんです。全校中学校、大人塾で使えるようにしてもらおうかな、と。

○議長 去年のものを見ると、「当事者研究」のところは全部「高円寺学園」となっています。ここは小・中一貫校となっています。すべて学校でやっているわ

けですね。

○中曾根氏 去年、一昨年、社会教育センターがリニューアルで2年間お休みだったんです。併せてコロナもあって、本当にいろんな事業が止まっていた。それでも行政主催の大人塾は社会教育センターではないところに、いつも以上に出て行っていました。去年の8月に再オープンしたので、また少し社会教育センターを拠点にしながらやっていると。大人塾連はそれこそ街のあちこちを使っています。

○朝枝氏 「まちナカ・コミュニティ西荻みなみ」は場所貸しもしているので、そこを月一回借りています。空き店舗をリニューアルして町のコミュニティにしています。

○事務局 コミュニティホールのような。

○朝枝氏 ホールまではいかないんですけど、いろんな事をやって商店街を巻き込みながら事業をやっているという。

○中曾根氏 地域コースの「西荻コース」をやっていた時の卒塾生が、たまたま西荻の商店街に空き店舗があって、そこをみんなで借りていて、定期的に安く貸してくれています。町会の荷物置き場として場所を提供し、全体収支を図って。当然大人塾の卒塾生だけじゃなく、社会福祉協議会の方とかも定期的に活用しています。

○議長 いろんな市民活動の人たちもどんどん使えるような状態ですね。

○朝枝氏 子ども食堂も入っている。

○緒方 そこなんですよ。

○議長 「にしおぎベース」のような一般財団法人の方が持っている施設もあるんですよ。

○朝枝氏 「にしおぎベース」はそうなんですけど、「西荻みなみ」は本当にみんなが出資をして、改装をして使っている場所です。

○議長 役所が建てたものじゃないところで市民が使えるスペースというのが西荻にいくつかあるというのはなかなかすごいことだなと、この前見せていただいて思いました。

○中曾根氏 さっきの映像の荻窪コースから生まれているグループ、OgiLOVEでは、代表の方が自宅を開放して活動場所になっている。

○朝枝氏 そこからZoomも発信するし、そこにみんな集まる。

○議長 「社会教育の再設計」のシーズン3では、自分の家を開いた人の活動とか2つぐらい報告がありましたよね。そういった活動が全国で広がってきているんですね。自分の思いと自分が持っている資源を使って地域に関わっていくというような方が登場してきているのかな、と思いました。場所ということは区民の活動にとっては大事だということで、それを自ら用意してしまう。そこまで

の思いや意欲をどう高めていくのかがポイントかと思いました。

○中曽根氏 私たちも行政だけだと本当に「打たれ弱い」というか、行政って一番安定しているように見えて、やっぱり組織の一部門なので、私たちだけがいくら上司に言ってもなかなかそれをしっかり守りきることはできないのです。でも、両輪で、卒塾した人たちも緩くて勝手なというか、自由なグループがいろんなところに働きかけたりどんどん形にしていったり、というのがあって、映画上映会の子ども会議、行政でやろうとすると、すぐにはできないんですけど、みんなまで働いて稼いだお金を使うこともできる。その選択の幅があることで、行政も動きやすい。

○議長 役所というのは予算があって動くことが多いのですが、市民活動というのは予算を集めるところとか自由にできるわけですね、共感さえ得られれば。そういう作っていくところの面白さもあるのかな、と思いました。社会教育センターには社会教育主事の方もいらして、いろんな意味で大人塾のプログラムだけじゃなくていろんなところへの支援をしている、そういう存在もいらっしゃるわけですね。

○中曽根氏 社会教育主事は長期間関わっている。私はもう長期どころか朝枝さんと20年くらいになります。その間たいして異動もせずに、しょっちゅうやりとりさせていただいています。

○朝枝氏 社会教育センターにいる斎藤さんという社会教育主事は、私はPTAの時からお付き合いをしているので、そういう意味で相談ができるし、中曽根さんもそうですけど、これはどうなんだろうか、というようなことを本音で聞けるし、あるいは講師の紹介とかも。

○副議長 駒澤大学で社会教育の講座の担当をしているものですから、過去何度か、実習でもお世話になりました。「すぎなみ大人塾まつり」にも学生が過去手伝いに行ったことがあって、すごく刺激を受けて、普段会わないようないろんな大人と飲み会で話を聞いて、すごく視界が開けたような感じで帰ってきました。非常に多種多様な人との出会いがあるというのはすごいな、と思っているのですが、各年度ごとのそれぞれのコースを受講した後のつながりの支援というのは、どうされているのでしょうか。

「大人塾連」が一つ受け皿にはなっていると思うのですが、その講座の中で最後の方で、放っておくのではなくて、サークルを作ろうかという気持ちになるような働きかけをされているのかとか、そのサークル化みたいところはどうかというふうなことを意識されているのか伺いたいです。

○中曽根氏 コースを受けた人でグループ化というところは、そんなに力入れていないというか、関わりきれていないんですけども、コースが終わった後にコース合同の成果発表会というのがあって、その発表者になるというところで、

大人塾で学んできた自分、一体これはどういう体験だったのか、整理する時間があって、そういうことを共有しながら、その成果発表会にかつての卒塾生たちも参加していたりするので、そこでみんなが混じり合うワークショップとかをやって卒塾したコースの人で、グループというよりは、自分が面白そうだと思うところに入っていったり、それもグループ化なのかもしれないですけども、そういうことを促していくというか、そういう機会をつくっておくというか。

その先でどういう関係ができていくか、というのはあまり私たち職員には見えてなくて、むしろ、朝枝さんが今協働プラザという施設の責任者になられて、朝枝さんのところにいろんな人が立ち寄っていろんな話を言っていたり、もしかしたら朝枝さんも知らないところで勝手に何かを誘い合っているというそういう形なのかなと。

あまりにも見えないというかつかみどころがないので、「大人塾まつり」というのを年に1回やって、普段何をやっているか、お店形式でみんなで出し合って交流するような。卒塾生たちが交流している風景が阿波踊りなんですけれども、あんな感じでお互いが確認し合っています。

○副議長 それぞれが勝手につながって生み出された活動については、行政側としては何かフォローアップとか、登録しておくとかいうことは特にせず、区民のほうで勝手につながり合っていて、でも、お祭りのときにはどうやって声をかけるんですか。

○中曽根氏 お祭りのときには、その年度のあるいはコースの窓口になっているような人を通して情報を共有して、出展者の募集を始めるという感じですかね。

○副議長 そういうのをまたキャッチしてかつての卒塾生たちもサークル活動をやっているような人も、そこに出席したりとかというのもあったりするんですかね。

○中曽根氏 コロナ禍の前は、緩いと言っても、それでももう少し体系的に呼びかけ人がはっきりしていました。コロナ禍でそれが一旦止まって、この間の冬ですよね。久しぶりにやりたいので、今またその声かけ方とかつながりの現状みたいなのを確認し合いながら組み立て直すというところもあるのかなと。

○朝枝氏 組み立て直したいなと思っています。

○中曽根氏 この冬はコロナの前に比べると出展者も少なくなっています。

○副議長 「大人塾連」の運営については社会教育主事さん職員さんも定期的なその月一回の会議にも出たりとかしているのでしょうか。

○朝枝氏 出ています。いらっしゃらないときもありますけど、何か必要なときは必ず出ています。

○議長 通常講座とか比較的長い講座をやると、職員としては自主グループを

作っていききたいとか、昨日、ある市の公民館の審議会があつてそういう話が出たのですが、そのための支援をするわけですね。講座が終わってから何回か集まる機会を持ったり、講座をさらに開くような経費を負担するとか。そういうことで職員が努力したこと、講座の充実度をサークル化で測っていく面もあります。ですが、そういうこと自体にも囚われなくて、サークルを作る作らないことも含めてご本人たちが自由に選んでいけるようなことで、その大きな狙いが、先ほどの中曽根さんの答えでは、「自主グループ化ではなくて自立した市民として」というところが大事なキーワードなのかなと受け止めました。そういう人たちが自らグループになっていこうとか、集まってみようとか、そうした主体性が土台にある。市民がいる、市民が増えることの強さというか、可能性というのがすごく感じたところでした。

従来からの講座に対するイメージも変わってきてつつあるのかなと、今お話を聞きながら感じたところです。

そういう意味では、自由さ、緩いところや、なんかワクワクするようなこういうことやってみようよというような、自由な発想が許されることは、この時代の中ではとても貴重なことだと思いました。毎朝「ブギウギ」を見ているんですが、それってワクワクするんじゃないか、と主演の趣里が言っていたんですね。ワクワクすることが大人になるとだんだんできなくなってしまうので、こんなことやったら面白いなと思えるような、そういったことがすごく、大切だと思います。これは「社会教育の再設計」の中で、牧野先生のAARのお話を思い出しました。最初のAはアンティシペーションという、これやったら楽しいんじゃないかと思う。次のAがアクションやってみる。試しにやってみて、失敗するかもしれません。Rはリフレクション振り返り。PDCAのチェックみたいに厳しくなくて、やって失敗したら今度はこういうふうにやってみようよ、というような循環ということで、特に子どもたちの学習の中で求められているという考え方なのですが、これは大人に求められているんじゃないか、ということ再設計という学習の中で私は一つ学んだと思っているところです。そういうことが大人塾にはポイントにあるんじゃないかと、今日のお話も含めて感じたところです。

○澤村委員 私にはなかなかイメージが湧かない部分もあるのですが、具体的にお聞きしたいなと思ったのが、例えばこのパンフ「チガイ・ラボ」です。裏にこの講座の一覧表が出ているじゃないですか。内容を見ますととても難しい内容で、私なんかついていけなと思うのですけれど。

講座の進め方として、例えば先生が一方的にお話をする授業みたいなタイプだけではないというようなお話もありましたし、最後に合同成果発表会というものがあるとすれば、受講生も何か自分でアクションを起こしてその成果を求めなくちゃいけないということになると思うんです。具体的にこの講座の進め

方というのはどういうふうにやられているのでしょうか。

○中曾根氏 例えば「第3回認知症と共に生きる」だと、若年認知症になった方が認知症から見えている世界ってこうだよという話があって、それを聞いた後に、2時間の講座の中で後半はグループで話を聞いてどう思ったか、あるいは最初考えていた認知症と、今思っている認知症と、何か違いが生まれましたかというのをシートに書き込んでもらったりしながら、改めて認知症になったら人生は終わりだというのではなくて、認知症には認知症の人生があって、そこで悩んでいることって、意外に自分と共通項があるんだな、ということに気づいていくようになっていきます。それが毎回同じような作りになっていて、薬物依存と言うと、とても遠い世界の人みたいに感じるんですけど、実は薬物に依存する人って、誰にも依存できなかった結果、薬に頼るしかなかったということがわかる。

実は「一人ぼっち」という感覚というのは、誰の中にもあって、それを出し合ってみるようなことをやってきました。そうすると、今まで「障害者」というと自分と区別して向こう側にいる人という人と捉えがちだったものが、ソーシャルインクルージョンということは、一緒に生きていくということを考えていく。

○澤村委員 一方通行じゃなくて受講者が自ら意見を出してグループで考えるスタイルを全回通してやる。つまり社会問題みたいなことをテーマに上げて、半分は現状を視察するなり、お話を聞くなりして、残りの半分はみんなで考えるというゼミスタイルになるということなんですかね。その中で、例えば学習支援者という方がいらっしゃってメインの講師がいて、それぞれの講座にも講師の方の名前が載ってますけれど、それから区の職員の方もいらっしゃる。そういうたくさんの方がこの講座に関わっていて、その役割分担みたいなものがちょっとさっきと似た質問になるかもしれませんが、どういうふうに調整されて、企画の段階からこの終わりまで実施するのか、そのへんのノウハウみたいなものは何かありますでしょうか。

○中曾根氏 この1回から9回までのプログラムは伊藤さんと熊谷さんの2人が基本は組んでいく。ゲスト講師はこの人がいいんじゃないかというのは、熊谷さんのネットワークを生かしていただき、職員は裏方的に講座は進んでいきます。その中で職員は毎回来る受講生とだんだん顔なじみになっていくわけですね。それで最後9回を終わって合同成果発表会に向けて、この9回で自分たちが学んだことをとても難しい言葉の定義などを学んでいくんですけど、それを自分なりに多くの人に伝えるとしたらどういう伝え方ができるんだろうか。受講生だけで発表の仕方を話し合っていくというのが、この9回目から合同成果発表会の間で、そこをサポートするのは職員です。

○澤村委員 企画の段階では、区の職員の方はあまり関わっていないという。

○中曾根氏 そうですね。すごく専門的なところもあるし、どういう人がその世

界で適任なのかというのは、職員だけでは難しいですね。

○澤村委員 きっと珍しい形じゃないかなと思うんですけど。そうすると学習支援者の方とか、メインの講師の方をどうやって選ぶのか、どういう人たちにこういう役割を担っていただいているのか、これを選ぶのが区になるわけですよ。

○中曽根氏 選ぶのは職員です。

○澤村委員 学習支援者とかは区民の方ですか。

○中曽根氏 区民の方もいれば区民じゃない方もいます。

○澤村委員 区民の方に限定するということではないのですか。

○中曽根氏 そうですね。例えば伊藤さんは、10年くらい前の大人塾の時にゲストで来てくれた人なんですね。そのゲストで来てくれた伊藤さんを今度は「学習支援者」にして講座全体をプロデュースしてもらおうと決めていくのは、職員の中で話し合っ

○澤村委員 そういう方にお任せできたという環境というものがあるということは素晴らしいなと思うんですね。

○中曽根氏 長くお付き合いできる場合もあるし、1年で「学習支援者」が交代する場合があります。

○議長 これについては資料の中にどなたが「学習支援者」だったのかということも全部書かれています。

○中曽根氏 後ろのところにこの20年間の「学習支援者」が書かれています。

○議長 学習を作ったり、運営の部分でファシリテートもしてくださるような方とどれだけ知り合えるかということが、職員にとっては大事なことだったりしますね。

特に、前回は熊谷先生がずっと1人で講師という形でいて、今回はそれを踏まえた上で、具体的にもっと幅広い立場で当事者として活動している方を講師としていて、プログラムとしてもかなり進化してきたというイメージで受け止めています。つまりいろんな立場の方の話を聞くので、それを毎回ワークのシートを使いながらその会ごとに振り返ったり、自分の思ったことを伝えたりとか。それを伊藤さんがファシリテーターとして運営するというイメージになっています。

○中曽根氏 今年度は特にいろんなゲストの方に喋っていただいたので、全部映像を撮って1時間くらいの番組のように編集・発信することになりました。それを教育委員会だけではとてもできないので、ラーニング・デザイン・ラボという伊藤さんが作っている団体で熊谷先生の研究室の協力も得て、映像化しているところです。

大人塾の成果をより広く活用していただければと考えています。

○議長 教育委員会ではできない部分ですよ。

○朝枝氏 「学びの循環」ということでは、伊藤さんとこの間話してきたことで、「チガイ・ラボ」の前に「ジブン・ラボ」があるんです。「ジブン・ラボ」の卒業生とともに当事者研究をどう進めていくかということ、私たちも悩んでいるし、伊藤さんがもうちょっと使い勝手を知りたいということで、ワークシートの開発を今後一緒にできたらいいねという話とかもされているので、私たちの次の先があるんだなということも分かりますし、次のやりがいになります。

○議長 プロの人だけで作ってしまうと、市民が使いにくいものになってしまう場合もあるのではないのでしょうか。

○朝枝氏 その人たちがどう使えるのかということを知りたいということ、さらには、さらに学びの機会になると思います

○副議長 広報のことなのですが、どういう形で毎回広報をやっていらっしゃるのでしょうか。また年齢層の偏りの課題、例えば、年齢層が40代以上に偏りがちであるということが、他の自治体ではあるようです。あと、リピーターが多すぎて新規の人が少ないというようなことが起こりやすいかと思うのですが、そういったところを改善するための工夫とか、そのための広報とかというのは何かありますか。

○中曾根氏 3コース共通して、区の広報誌やホームページに掲載しているのですが、例えばこの年度は、広報の特集で3面でやってみようというのがある、これの効果があって申し込みが大きかったということがあります。

それでもやはり40代以上になりがちなので、もう一つ別枠で「アンダーサーティ・ミーティング」という講座をやっています。10代・20代で「まちの運動会」を作るといって、プロジェクト型の学習です。これまで商店街振興のフィールドで活躍してきた方を「学習支援者」に行いました。合同成果発表会のときに、世代交流が生まれ、大人塾の年配の人から渋谷でもこんな「まちの運動会」やっているよって紹介があって、行ってみたらすごく勉強になったとか。年配の方がお子さんに次年度の講座参加を進めたり。最初から混じっては難しいなと思うのですが、接点は作れるなと思います。

○副議長 今年度からですか。

○中曾根氏 前年度は若干失敗したんですが、今年度は「まちの大運動会」というプロジェクトを全面に出して、具体性があったからか、定員を超えました。

○副議長 ありがとうございます。

○議長 今年度の3つの事業は全て平日の夜間か土曜日ということで、以前は午後というのもあったので、そういうところで参加者数も少し変わってきましたか。

○中曾根氏 そうですね。始めた当初は、「昼コース」と「夜コース」とシンプ

ルで、昼間の平日に来れる人と夜の人は三井物産戦略研究所の人に、CSRとかソーシャルデザインとか社会的起業とか、仕事をされている方の入口作りを工夫しました。朝枝さんも「夜コース」に、2006年に参加されました。

○副議長 講師陣がゴージャスですね。

○議長 杉並というと、僕も足立区で働いていて荒川区出身なので、なんとなくこの辺よりはハイソサイエティなイメージがありましたが、この間「にしおぎベース」に行ってみましたら、下町的で親しみがわきました。

○中曽根氏 高円寺や西荻は、下町的ですね。

○議長 ありがとうございます。まだまだお話が聞きたいと思っているのですが、予定の時間も過ぎてしまいましたので、一言ずつ最後に補足をお願いします。

○朝枝氏 去年は成果発表会がなかったので塾連でやっちゃったんです。そういうことを、卒塾生が大事な出番だと思っているので、企画をしちゃうみたいなのところもありましたし、以前は社会教育センターが講座の支援をしてくれて、講座を作ってみませんかみたいな形でやっていただいたのが、今では分不相応な先生たちに声をかけて来てもらうという体当たりの講座もできるように力をつけてきているので、それはやはり20年の成果かなと思っています。

○中曽根氏 大人塾って先があまり描けないで担当していくので、職員もすごく鍛えられる。まさに住民・受講生と一緒に考えてないと、というところがあるんですが、こういう大人塾を担当した中で、自分も社会教育士を取ってみようという職員が増えていきます。今大人塾を担当している職員は、事務職で入って来たけれど、何人か社会教育士を取り始めたと言っています。こうやって、社会教育面白いと思ってくれる職員が増えていくと、すごく嬉しいなと思います。

私は元々社会教育主事という専門職ですが、仲間が増えていくのが楽しみで、裏方ですごく楽しませてもらっています。4月から担当ではなくなるのですが、改めて今日話す機会をいただいたて、この20年振り返ることができました。ありがとうございます。

○議長 私どもは来月振り返りをやって、またご質問する可能性はありますので、その時はまた、よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

(2) 今後の会議の進行について

○議長 では、今後の会議の進行について、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局 資料4のスケジュール案の方をご覧くださいませでしょうか。本日の会議の前に2月21日に正副議長に集まっていたいで、日程案を作っていたきました。

もともと4月は予定に無かったのですが、本日の杉並の内容を忘れないうちに振り返りをしたいということから、4月にも日程を入れさせていただいておきます。6月11日は、社会教育関係団体の補助金の審議がございます。

月1回のペースですが8月はお休みで、という形で会議をしていただいて、今年度は、最終的に提言書を作成していただくということで、提言書の構成や中身作りに入っていただくようになるかと思います。1月か2月に教育長に来ていただき、議長から提言書の提出をしていただく予定ですが、今の時点ではまだ日程が決まっておりません。

委員の皆様にもご都合がおありと思います。この日程案をご覧になってご都合がつかないところがありましたら、おっしゃっていただければと思います。

○議長 ありがとうございます。もしこの日程が悪いということが分かっている日があれば、後ほど事務局の方にお申し出いただければ、調整させていただきます。

次回の4月にも会議日程を入れさせていただいておりますので、ご了解いただければと思います。

(3) その他

○議長 では何か情報、連絡とか、その他でありますでしょうか。

○事務局 内示という形でまだ決定ではありませんが、事務局のメンバーは、大きな異動はなさそうです。

○議長 生涯学習課長、よろしければ最後に何かコメントをお願いします。

○生涯学習課長 お忙しい中、皆さんお集まりいただきましてありがとうございます。また、杉並からおいでいただき、貴重なお話をいただいて、本当に参考になりました。私たちも今のやり方はどうなのか、ということも、もう一度考え直すきっかけを作っていただいたと思い、本当に感謝しております。

委員の皆様、葛飾区以外の活動を吸収して、今度葛飾で「学び直し」をどういうふうに作っていったらいいのかというところを、ぜひいろいろご意見いただいてまとめていただければなと思っていますので、どうぞこれからもよろしく願いいたします。

○議長 以上で、本日の委員会議を終わりたいと思います。ありがとうございます。

—閉会—